

関東ESD学びあいフォーラム

2015.11.28

小中学校でESDの授業に取り組むために

～ こうしてESDプログラムは誕生した ～



元伊豆市立天城中学校 校長 大塚 明

授業の準備の基本

1 子ども理解



2 教材研究



- ① 発達段階 → 学習指導要領
- ② 学習履歴(今までに学習した内容) → 学習指導要領
- ③ 子どもの実態(自然環境等の地域性・先行経験等々)
- ④ 育てたい力(学校の経営方針、地域課題) → 学習指導要領

発達段階による育てたい能力・態度

※ 例えば小学校理科の目標には

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

第3学年 ……現象を比較しながら調べ……

第4学年 ……働きと関係付けながら調べ……

第5学年 ……条件に目を向けながら調べ……

第6学年 ……要因や規則性を推論しながら調べ……

ESDがめざす教育

GAPより抜粋

目的

持続可能な開発に貢献するための、知識、技能、価値観、態度を習得する機会を得るため、**教育及び学習を再方向付けすること。**

原則

ESDは、(中略)学習者が持続可能な開発の行動へと駆られるような**革新的な参加型教育及び学習の方法**を必要とする。

ESDは**批判的思考、複雑なシステムの理解、未来の状況を想像する力及び参加・協働型の意思決定**等の技能を向上させる。



答えのわからない問い に**自分なりの答えを導く力**を身に付けること
(あらゆる要素が複雑に絡み合っ、正解が一つに定まらない問い)

学校でESDを実施するときのポイント

学力の3要素(学教法30条)

- 1 基礎的な知識・技能の習得
- 2 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力
- 3 主体的に学習に取り組む態度

< 総合的な学習の時間 >

自主的、自発的な学習

問題解決的な学習

学び方を学ぶ

ESD

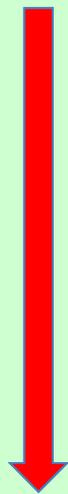
生きる力

自主的・自発的な学習

- 1 子どもが課題を自分ごととして捉えるように
 - ・やらされているという感覚から
自ら考え追究し行動するためにはこの部分を丁寧に指導。
- 2 自分たちにできることは何かという視点で
 - ・自分たちにできることとできないことを区別して考えないと
他人事(他人任せ)で終わってしまう。
- 3 子どもたちに自信を持たせ励ます
 - ・自己肯定感、自己有用感がやる気を引き出す。

問題解決的な学習

自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する

- 1 学習課題 **Aの姿**
 - 2 主発問(実験・体験・調査・・・)
 - 3 学習問題(問題の発見・矛盾・・・)
(おや?なぜだろう) → 追究の意欲
 - 4 追究(様々な手立て・実験・調査・・・)
 - 5 解決(共有・深化・発信・行動) **A'の姿**
- 

ポイント

- ・子どもたちの思考の流れに沿ったもの
- ・子どもの気持ちに寄り添う
- ・ストーリー性のあるもの

実施にあたっての留意点 1

- 1 児童・生徒にとって身近かで切実感のある課題
(地域に結びついた課題等) 主体的に学ぶ
- 2 情報は課題追究に必要最小限にとどめる
(欲張って多くの情報を与え過ぎない) 必然性
- 3 子どもの思考の流れに沿った展開を心がける
(教えたいことが先行しないこと) 問題解決学習
- 4 個人やグループで考え、追究する時間を確保する
(十分な時間を与えないと考えは深まらない)

実施にあたっての留意点 2

- 5 できるだけ本物の体験を重視する 実感をともなった理解
(知識でなく体験を通して感じるものを大切に)
- 6 できるだけ多くの人とつながるようにする 異年齢
(特に地域の大人とのつながりを大切に)
- 7 追究の結果が地球規模の課題解決に結びつくこと
(地域の課題が地球規模の課題とつながっていることに気づかせる)
- 8 最終的には、自ら考え行動を起こすようにする
(地域の課題に気づき行動する人を育てる)